

第28回 天文文化研究会

The 28th Workshop on Cultural Studies of Astronomy

2024年12月22日（日）9時50分開始，17時45分頃終了
@大阪工業大学梅田キャンパス または オンライン参加形式

(2024-1217版 ver 3)

本研究会のページ

<https://www.oit.ac.jp/is/shinkai/tenmonbunka/20241222/index.html>

会場参加の方へ

- ★ 会場は，大阪工業大学梅田キャンパス（大阪市北区茶屋町1番45号，7ページに地図あり）です。10階1004教室です。
<https://www.oit.ac.jp/rd/access/index.html>
- ★ 氏名を1階エレベータ前の守衛室に届けてありますので，「天文文化研究会参加」としてカードキーを受け取ってお進みください。
- ★ 昼食は，21階にレストランもありますが，ご持参されることをお勧めします。
- ★ 大阪工業大学のwifiをご利用になれます。発表用のPCをご持参する場合は，zoomにつないでファイルを共有する形でお願いいたします。

オンライン参加の方へ

- ★ Zoomを用いて双方向の通信をします。Zoomのアプリケーションは無料で入手できます。
- ★ アクセス先はメールにてご案内したものをクリックしてください。
- ★ 聴講される方は，質問される時のみカメラとマイクをオンにしてください。ご発表される方は，ご発表中はカメラとマイクをオンにしてください。
- ★ 画面説明は，7ページにあります。

Slack

- ★ 資料の共有などはSlackをいたします。
ウェブブラウザ（Safari, Google Chrome, MS Edge, Firefoxなど）上で使えますが，PC用のアプリケーション Slack（無料）をインストールした方が，使い勝手がよいです。
- ★ Slackのアクセス先は，招待状をメールで送信しておりますので，そこからアクセスしてください。『#第28回研究会20241222』というチャンネルをいたします。
- ★ 資料の共有のほか，質問，感想，情報提供など，なんでも書き込みを歓迎いたします。
- ★ 画面説明は，7ページにあります。

Slackは有料化され，使い勝手が以前と比べて若干制限されています。無料アカウントでのアクセスが1ヶ月となっているため，Slackの今回の研究会チャンネルは2025年1月15日で閉鎖いたします。

第28回天文文化研究会 プログラム

日時 2024年12月22日 (日)

会場 大阪工業大学梅田キャンパス 10階1004教室

9:50 ご挨拶 Greetings

松浦 清 (大阪工業大学, 会場出席)

Kiyoshi Matsuura (Osaka Inst. Tech.)

----- Session 1 -----

10:00 [招待講演] 天文学と占星術の蜜月関係 ~古代から中世へ~ 【50分+10分, 会場】

[Invited] The intimate relationship between astronomy and astrology ~ from ancient times to the middle ages ~

加藤 賢一 (星学館)

Ken'ichi Kato (Seigakukan)

概要：古代ギリシャ世界では天体の運行理論とその実践としての占星術で天文学は完結するとされ、占星術は天文学を発展させる原動力でもあった。キリスト教の浸透により姿を消した占星術はルネサンス初期に蘇り、中世を生き延びたが、近代の幕開けと共に天文学と絶縁し、独自の道を歩むことになった。こうした両者の関係をプトレマイオス、ティコ、ケプラーを例に紹介する。

11:00 謎の暦法・符天暦での暦日計算法と七曜暦の造暦について 【35分+5分, オンライン】

A medieval Japanese calendar based on the Futian Li

竹迫 忍 (日本数学史学会)

Shinobu Takesako (Japanese Society for the History of Mathematics)

概要：符天暦は唐代8世紀末に曹士蔦(そうしい)が編纂した民間暦法であり、占星術に使われて広く普及し、授時暦にも影響を与えたといわれる。また、僧の日延が天徳元年(957)に『新修符天暦』を修得し持ち帰ったが、官暦に採用されることはなく、専ら宿曜道の宿曜師が占星術に用いたとされてきた。暦法史料はほぼ現存していないが、陰陽寮の暦博士が符天暦で計算した暦日計算結果が残されており、それをもとに暦日計算法を復元した。また、陰陽寮による太陽、月と5惑星の日々の位置を記載した七曜暦(1494-1500)を分析したところ、『新修符天暦』で計算されていることが判明した。つまり、符天暦は約600年間、宣明暦とならんで官暦に用いられていたことになる。今回はそれらの分析内容等を説明する。

11:40 天文学で読み解く「銀河鉄道の夜」 【15分+5分, 会場】

Kenji Miyazawa's "Night on the Galactic Railway" interpreted through astronomy

大西 浩次 (長野高専)

Kouji Ohnishi (Nagano College, Nat. Inst. Tech.)

概要：宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」は1924年より書き始められ、第1次稿から第4次稿の1931年まで、幾度となく推敲が行われている。特に、第4次稿では、物語の根幹に関わる部分の大きな変更が行われている。ここで、第4次稿のきっかけと、その中断の理由について、当時の天文学の状況と含めて仮説を紹介したい。なお、今年は「銀河鉄道の夜」の第1次稿から、ちょうど100年の記念の年である。

昼休み

----- Session 2 -----

13:00 [招待講演] 平安時代の陰陽師と星の関わり 【50分+10分, 会場】

[Invited] The relationship between On'yoji of the Heian period and stars

中島 和歌子 (京都女子大学)

Wakako Nakajima (Kyoto Women's Univ.)

概要：陰陽師は本来、律令に規定された官職名だったが、平安時代に意味が広がり、現代に至る。広義の陰陽師は、呪術・祭祀も行なうが、その中に星を祭るものが含まれていた。平安時代の陰陽師の星との様々な関わりを、密教占星術である宿曜道を視野に入れつつ概観した上で、古典文学作品の例に基づき、具体的に紹介する。

14:00 智積院本北斗曼荼羅について—紹介と現状報告— 【15分+5分, 会場】

The Hokuto Mandara in Chishakuin: Introduction and status report

大岩 雅典 (早稲田大学)

Masanori Oiwa (Waseda U.)

概要：智積院本北斗曼荼羅は、智積院第十世能化・専戒が晩年に制作させた方形式北斗曼荼羅で、2024年初めて一般に展示された。本発表では、智積院本北斗曼荼羅について紹介するとともに、現時点での研究状況を報告する。

14:20 円形北斗曼荼羅についての一考察 【35分+5分, 会場】

A Study on the Circular form Star Mandala

松永 恵実 (武蔵野美術大学)

Emi Matsunaga (Musashino Art Univ.)

概要：密教絵画の一種である円形北斗曼荼羅について、実見した作品を二つ紹介しながら考察を行う予定です。

15:00 日輪か月輪か —春日聖域の山上の円相について 【15分+5分, 会場】

The sun or the moon? On the circle above the mountain of Kasuga sanctuary

松浦 清 (大阪工業大学)

Kiyoshi Matsuura (Osaka Inst. Tech.)

概要：春日社の聖域を描く春日宮曼荼羅は平安時代末期に描かれ、鎌倉時代から室町時代にかけて量産された。春日山の山上に描かれる円相については、日輪と月輪のいずれを描いたものが決着をみない。春日山と円相の位置関係に注目して検討する。

コーヒーブレイク

----- Session 3 -----

15:40 『源氏物語』須磨巻の「月」の解釈—古注釈を中心に 【15分+5分, 会場】

Interpretation of "Moon" in the Suma of "The Tale of Genji": Focusing on Ancient Commentaries

横山 恵理 (大阪工業大学)

Eri Yokoyama (Osaka Inst. Tech.)

概要：須磨巻の「月」に対する注釈内容を確認し、各注釈書が「月」に何を重ねて『源氏物語』を読もうとしたか考察する。

16:00 **天文文化学から津嘉山大綱曳きを考える【35分+5分, 会場】**

Thinking about Tsukazan Giant Tug-of-War from the perspective of Cultural Astronomy

北尾 浩一 (星の伝承研究室)

Koichi Kitao (Star Lore Laboratory)

概要：2024年7月、21年ぶりに沖縄県南風原町の津嘉山大綱曳きが行なわれた。大綱曳きでは、星に関係する歌が伝えられている。なぜ星を歌ったか、天文文化学から考える。

16:40 **国立天文台三鷹移転100周年記念イベント「天文学×現代アート 100年の宇宙（そら）見つめる眼・歌う声」開催報告【15分+5分, 会場】**

Event report on the 100th anniversary of NAOJ's relocation to Mitaka City: "Astronomy x Contemporary Art: 100 Years of the Universe: Gazing Eyes, Singing Voices.

波田野 聡美 (国立天文台)

Satomi Hatano (Nat. Astron. Obs. Japan)

概要：2024年11月3日、国立天文台三鷹移転100周年を記念し、「天文学×現代アート 100年の宇宙（そら）見つめる眼・歌う声」を開催した。天文学者とアーティストのコラボレーションにより新しい世界観がここに生まれた。文化と科学の融合の可能性を、当イベント開催報告を通して紹介したい。

17:00 **岡山理科大学における天文文化研究【15分+5分, 会場】**

Cultural studies of astronomy at Okayama University of Science

福田 尚也 (岡山理科大学)

Naoya Fukuda (Okayama University of Science)

概要：岡山理科大学の生物地球学科天文学コースでは、主に卒業研究において様々な天文文化に関する研究が行われてきた。その概要を紹介する。

17:20 **星をつなぐ【15分+5分, 会場】**

Connecting Stars

真貝 寿明 (大阪工業大学)

Hisaaki Shinkai (Osaka Inst. Tech.)

概要：西洋星座/中国星座/その他星座があるように、星座が作られた背景には、地域的な歴史や文化がある。みかけの星の分布から考えて、もっとも自然な星座の作り方はどうなるのかを考えはじめた、という報告。

17:40 **(イベント紹介) 南方熊楠顕彰館春季特別企画展について【5分, 会場】**

Minakata Kumagusu Memorial Hall Spring Special Exhibition

井村 誠 (大阪工業大学)

Makoto Imura (Osaka Inst. Tech.)

概要：2025年3月15日～5月5日の期間に南方熊楠顕彰館（紀伊田辺市）で開催が予定されている特別企画展「南方熊楠の英語力（仮題）」についてのご案内

17:45 終了予定 (やや延長の可能性あり)

この研究会は、科研費・挑戦的研究（開拓）「天文文化学の新展開：数理的手法の導入で文化史と科学論から自然観を捉える研究の加速」（代表・松浦清，2024-2028）のサポートを受けて開催しています。

ご案内

これまでの研究会の記録は

<https://www.oit.ac.jp/is/shinkai/tenmonbunka/workshop.html>

にてご覧いただけます。

天文文化研究会のページ



ご案内

情報交換用にメーリングリストを作っております。

tenmon-bunka_AT_googlegroups.com

会員間の情報共有、本研究会のご案内などに利用しております。登録ご希望の方は、

真貝(hisaaki.shinkai_AT_oit.ac.jp)または横山(eri.yokoyama_AT_oit.ac.jp)までお知らせください。

ご案内

松浦清・真貝寿明 編『天文文化学の視点 星を軸に文化を語る』

(勉誠社, 2024年10月, 定価 3,850円(税込), ISBN 978-4-585-32542-0)

https://bensei.jp/index.php?main_page=product_book_info&cPath=2&products_id=103765

絶賛発売中。アジア遊学シリーズの1冊として。

松浦清・真貝寿明 編『天文文化学序説—分野横断的にみる歴史と科学』

(思文閣出版, 2021年12月, 定価 10,450円(税込), ISBN 978-4-7842-2020-5)

<https://www.shibunkaku.co.jp/publishing/list/9784784220205/>

絶賛発売中。研究会参加者は、思文閣さんへの直接購入申し込みで20%引き!!

ご案内

次回の研究会は、2025年6月頃 を予定しています。

天文文化学ホームページ



勉誠社 天文文化学の視点



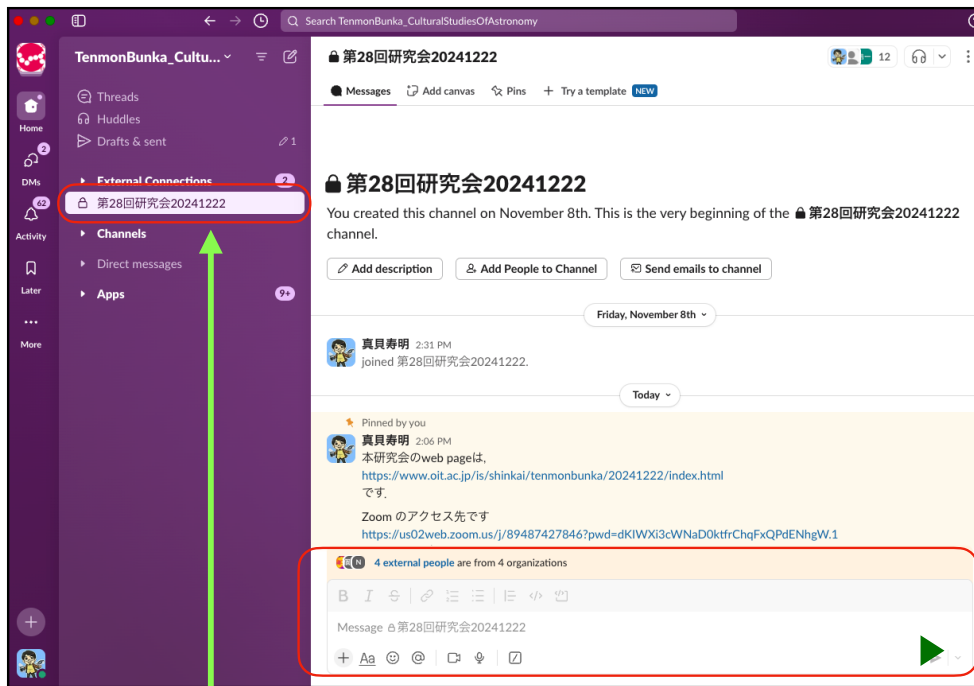
思文閣 天文文化学序説



Zoomの画面 (Macintoshの場合)



Slackの画面 (Macintoshの場合)



大阪工業大学 梅田キャンパス (OIT梅田タワー) へのアクセス

<https://www.oit.ac.jp/rd/access/index.html>



所在地：大阪市北区茶屋町1番45号

- ・ JR「大阪」駅から徒歩5分
- ・ 阪急「大阪梅田」駅から徒歩3分
- ・ 阪神「大阪梅田」駅から徒歩7分
- ・ 御堂筋線「梅田」駅から徒歩5分
- ・ 谷町線「東梅田」駅から徒歩5分
- ・ 【地下街からのアクセス（地下街直結）】

ホワイトティウメダプチシャンモールをプチ北広場まで進み、ヤンマー本社ビルH-2方向に曲がり地下道を突き当たりまで進む。（JR、地下鉄、各私鉄のすべての駅から雨の日も快適にアクセスできます。）

★入構時は、守衛室にて「天文文化研究会参加」としてご氏名をいただければ、入構に必要なカード・キーが渡されるようにしておきます。

★会場は10階1004教室 です。